

歌と音楽科の教科書教材を主とした 小学校での音楽鑑賞教室

—公演ノート—

奥田 順也¹

はじめに

本稿では201X年11月24日に開催した、小学校での音楽鑑賞教室の報告をすることを目的とする。この鑑賞教室を小学校で開催するにあたり、着目したのは「小学校音楽科の教科書教材」、とりわけ、歌唱であった。これに着目した理由は、開催した小学校で音楽科の授業を担当していた筆者の問題意識にある。具体的には、児童が音楽に触れる機会は、音楽の授業のみならず、行事など様々ある。しかし、いわゆる「生の歌声」に触れる機会は多くはない。一方で、音楽科の授業では、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞のそれぞれの領域分野をバランスよく扱うが、とりわけ歌唱を扱うことは多い。また、学芸会や「今月の歌」など、音楽の授業以外の教育活動においても歌を歌うこともある。その「お手本」となる範唱の歌声は、教科書に準拠した指導用のCDなどである。つまり、教育活動において歌を歌う機会は多いものの、実際に生の歌声に触れる機会が少ないのである。とはいえ、小学生に合うよう、CDに収録されているような小学生の生の歌声を、通常教育活動の中で聴く機会を作るのは難しい。そのため、前述した問題意識のもと、筆者は音楽科の授業を担当する小学校において、音楽鑑賞教室を企画・構成からキャスティング、プログラミング、

¹川村学園女子大学
e-mail : junya-okuda@fc.hakuoh.ac.jp

出演まで行った（但し、後述するようにプログラミングについては1曲を除く）。この音楽鑑賞教室では、歌と小学校音楽科の教科書教材を主として、プログラムを作成した。本稿では「企画・構成」、「キャストイング」、「プログラム」と児童の感想及び教員へのアンケート結果を記すことで、開催した音楽鑑賞教室の報告をする。

1. 音楽鑑賞教室の企画・構成とキャストイング

本章では、開催した小学校の概要などとともに、開催した音楽鑑賞教室の「企画・構成」「キャストイング」について報告する。

1.1 開催した小学校の概要と手続き

音楽鑑賞教室を開催するにあたっては、小学校から依頼を受けた。本稿を記すにあたっては、学校長と学校名などを特定できないようにすること、後述する感想においては児童の個人情報を保護することなどを約束した。後述する出演者についても、公演終了後に本稿を執筆することに関する許諾を得た。

開催した小学校は、東京都公立小学校であった（以下、実施校）。実施校は児童数が多く、学習発表会などの行事も児童鑑賞日を2日設けて実施していた。今回の音楽鑑賞教室においてもそれは同様であり、午前中に小学校1～3年生、午後からは小学校4～6年が鑑賞できるよう、午前午後2回公演を体育館で開催した。2つの公演のプログラムの違いについては後述する。

1.2 開催日

「はじめに」でも記したように、201X年11月24日に開催した。

1.3 企画・構成

同じく「はじめに」で記したように、歌と小学校の音楽科の教科書教材

を主とした。小学校1～6年生の全児童が鑑賞するため、できるだけどの学年も楽しめるように構成を考えた。鑑賞教室では、例えば児童と一緒に歌うなどの機会を設けるつもりだったが、そのことを実施校で主に小学校高学年を担当していた音楽専科の教員に相談したところ、そのために音楽の授業内で練習時間を設けることは難しいという回答であったため、今回は「鑑賞」に専念することとした。なお、年度によって異なるが、筆者は実施校で小学校1～3年生を中心に音楽の授業を担当していた。

演奏については、できるだけ歌唱を中心としたが、幅広く器楽の演奏を取り入れることも念頭においた。実際には、ヴァイオリン、チェロ、箏、尺八による演奏も取り入れた。これらの器楽の楽曲も、小学校音楽科の教科書を主としたものであった。

1.4 キャスティング

1.3で記したことを踏まえて、以下の12名を筆者がキャストした。なお、演奏者の個人名は伏せている。

- ・ソプラノ歌手A
- ・ソプラノ歌手B
- ・ソプラノ歌手C
- ・アルト歌手、兼、司会進行
- ・テノール歌手A
- ・テノール歌手B（筆者）
- ・バリトン歌手A
- ・尺八奏者、兼、バリトン歌手B
- ・箏奏者（女性）
- ・ヴァイオリン奏者（女性）
- ・チェロ奏者（男性）
- ・ピアノ奏者（女性）

ソプラノ歌手は、声楽を専門とし、かつ、ミュージカルや合唱にも理解

のある歌手を3名キャスティングした。具体的には、ソプラノ歌手Aはオペラ・アリアとオペラの2重唱と日本の歌のアンサンブル、ソプラノ歌手Bはミュージカル曲、ソプラノ歌手Cは日本の歌の独唱を中心に担当した。アルト歌手は、日本の歌のアンサンブルとミュージカル曲の2重唱を中心に担当した。また、アルト歌手は全体を通して司会も担当した。なお、司会の原稿も筆者が全て作成した。

テノール歌手Aは日本の歌とミュージカル曲のアンサンブルを中心に担当した。テノール歌手B（筆者）は、ミュージカル曲を中心に担当した。バリトン歌手Aはオペラ・アリアとオペラの2重唱を中心に担当した。尺八奏者は、演奏活動で尺八を専門とすると同時に、合唱などの歌唱のアンサンブルにおいてバリトンパートをしばしば担当することがあった。そのため、尺八の演奏と兼ねてバリトン歌手Bとして、日本の歌のアンサンブルを中心に担当してもらった。

箏奏者は箏の独奏と尺八との2重奏を担当した。また、後述するように公演の最後の曲では、アルトパートを歌唱してもらった。ヴァイオリン奏者とチェロ奏者はそれぞれ独奏曲とピアノ3重奏、楽曲によっては歌の伴奏をアンサンブルで担当してもらった。箏の独奏と箏と尺八の2重奏を除く全ての演奏は、ピアノ奏者がピアノ伴奏をした。

次章の「演出」でも触れるが、児童には筆者が出演することを事前に知らせなかった。これは実施校の音楽の授業者の一人である筆者が、児童に予告することなく突如、音楽鑑賞教室に出演するというサプライズを仕掛けるためであった。サプライズを仕掛けた理由は、児童の驚きなどの「感情」を引き出すためである。次章で詳しく記すように、この音楽鑑賞教室は90分を超える公演であったため、長時間、淡々と鑑賞すると児童が疲弊することが推察された。そこで、後半にサプライズを仕掛けることで児童の「驚き」などの感情を引き出すことにより、児童の気持ちをリセットしようと考えたのである。なお、教職員には事前に知らせていた。

2. 音楽鑑賞教室のプログラムと演出

本章では、開催した音楽鑑賞教室の「プログラム」と「演出」について報告する。

2.1 プログラム

この音楽鑑賞教室を開催した時は、第8次学習指導要領（文部科学省2008）が実施されていた。したがって、主とした教科書教材はこの学習指導要領に準拠した平成27年度版の教科書に掲載されていたものをもとにした。実施校では2社の音楽の検定教科書のうち、教育芸術社の教科書を採用していた。そのため、音楽鑑賞教室での選曲に関しては、平成27年度版の教育芸術社の音楽の教科書（小原ほか、以下「教科書」）を参考にした。なお、第1部と第2部の間には、午前午後の公演ともに休憩時間を取った。

2.1.1 第1部のプログラム

1.1で記したように、この音楽鑑賞教室は、午前の公演（小学校1～3年生が鑑賞）午後の公演（小学校4～6年生が鑑賞）の2回公演であった。それぞれの公演で重複する楽曲もあれば、そうではない楽曲もあった。表1に午前と午後の公演の第1部のプログラムの一覧を記す。表1及び後掲する表2における教科書掲載学年の（ ）内の「鑑」は鑑賞教材、「共」は共通教材、「歌」は歌唱教材であることを示す。共通教材とは、各学年で必ず扱わなければならない歌唱教材のことである。各学年に4曲ずつあり、1～4年生では4曲全て、5、6年生は4曲中3曲を必ず扱わなければならない。なお、教科書に準拠した鑑賞用のCDにのみ収録されている楽曲については「鑑賞用CDに収録」と記している。

1曲目はオープニングとなる華やかな《ラデツキー行進曲》をピアノ3重奏で演奏することとした。

2曲目のメドレーと3曲目は「日本の歌」をテーマにプログラミングを

した。『ふるさとの四季』は混声4部合唱のメドレーではあるが、共通教材を踏まえて表1に記した8曲を選曲し、4重唱で演奏することとした。3曲目は午前と午後の公演で変えることとした。具体的には、小学校1～3年生が鑑賞する午前の公演では小学校の2年生共通教材である《夕やけこやけ》をソプラノ歌手Cによる独唱で、小学校4～6年生が鑑賞する午後の公演では小学校5年生の鑑賞教材である《この道》を、同じく独唱で演奏した。

4曲目と5曲目は日本伝統音楽、とりわけ「和楽器」をテーマとした。4曲目は、小学校4年生の鑑賞教材でもある《さくらさくら》を箏で独奏した。これは小学校音楽科の第8次学習指導要領器楽の内容において、第5学年及び第6学年で扱う旋律楽器の1つとして、和楽器が挙げられていることを念頭に選曲した(文部科学省2008、pp.91f)。5曲目の尺八による演奏は3曲目と同じく、午前と午後の公演で変えることとした。具体的には、午前の公演では尺八による旋律奏で《Let it go》を演奏した。この理由は、小学校低学年が尺八の音色を味わうにあたり、親しみがあると考えられる楽曲の方が良いと考えたためである。午後の公演では小学校5年生の鑑賞教材である《春の海》を、原曲の通り尺八と箏で演奏した。

6～8曲目は「ヨーロッパの歌」をテーマにして、オペラを中心にプログラミングした。内訳は、バリトン歌手Aとソプラノ歌手A、それぞれオペラ・アリアと2つのパートによる2重唱を演奏した。これらのアリアは教科書には掲載されていないが、テレビなどの商業でも起用される有名な楽曲である。そのため、児童でも親しみながら鑑賞できると考えたことから選曲した。ソプラノ歌手Aとバリトン歌手Aによる2重唱は、小学校4年生の鑑賞教材であった。

表1 音楽鑑賞教室の第1部のプログラム

	楽曲名と作詞作曲編曲者	教科書掲載学年	演奏形態（演奏者）	
1 曲目	《ラデッキー行進曲》 ヨハン・シュトラウス1世作曲	1年生（鑑）	ピアノ3重奏 （ヴァイオリン奏者，チェロ奏者， ピアノ奏者）	
2 曲目	混声合唱のための唱歌メドレー 『ふるさとの四季』より 源田俊一郎編曲 《ふるさと》 高野辰之作詞／岡野貞一作曲 《春の小川》 高野辰之作詞／岡野貞一作曲 《朧月夜》 高野辰之作詞／岡野貞一作曲 《鯉のぼり》 文部省唱歌 《茶摘み》 文部省唱歌 《われは海の子》 文部省唱歌 《もみじ》 岡野貞一作詞／作曲 《冬景色》 文部省唱歌 《ふるさと》 高野辰之作詞／岡野貞一作曲	6年生（共） 3年生（共） 6年生（共） 5年生（共） 3年生（共） 5年生（共） 4年生（共） 6年生（共） 6年生（共）	4重唱 （ソプラノ歌手A，アルト歌手A， テノール歌手A，バリトン歌手B）	
	3 曲目	《夕やけこやけ》 ※午前の公演のみ 中村雨紅作詞／草川信作曲	2年生（共）	独唱 （ソプラノ歌手C）
		《この道》 ※午後の公演のみ 北原白秋作詞／山田耕筰作曲	5年生（鑑）	
	4 曲目	《さくらさくら》 日本古謡	4年生（鑑）	独奏 ※ピアノ伴奏無し （箏奏者）
	5 曲目	ディズニー『アナと雪の女王』より 《Let it go》 ※午前の公演のみ クリステン・アンダーソン＝ロペス， ロバート・ロペス作曲	掲載なし	独奏 （尺八奏者）
		《春の海》 ※午後の公演のみ 宮城道雄作曲	5年生（鑑）	2重奏 ※ピアノ伴奏無し （箏奏者，尺八奏者）
	6 曲目	歌劇『カルメン』より 《闘牛士の歌》 ジョルジュ・ビゼー作曲	掲載なし	独唱 （バリトン歌手A）
	7 曲目	歌劇『ジャンニ・スキッキ』より 《私のお父さん》 ジャコモ・プッチーニ作曲	掲載なし	独唱 （ソプラノ歌手A）
	8 曲目	歌劇『魔笛』より 《パバゲーノとパバゲーナの2重唱》 ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト 作曲／中山悌一日本語詞	4年生（鑑）	2重唱 （ソプラノ歌手A，バリトン歌手A）

2.1.2 第2部のプログラム

表2に午前と午後の公演の第2部のプログラムの一覧を記す。なお、第2部にも午前と午後の公演で重複する楽曲もあれば、そうではない楽曲もある。また、曲数は午前と午後の公演で異なる。具体的には、午前の公演は午

後の公演よりも3曲少なくした。この理由については第2部のプログラムを報告する中で述べる。

表2 音楽鑑賞教室の第2部のプログラム

	楽曲名と作詞作曲編曲者	教科書掲載学年	演奏形態（演奏者）
9曲目	ミュージカル『オペラ座の怪人』より 《Think of me》 チャールズ・ハート作詞／リチャード・スティルゴー補作詞／ 浅利慶太日本語詞／アンドリュー・ロイド・ウェバー作曲	掲載なし	独唱 (ソプラノ歌手B)
10曲目	ミュージカル『オペラ座の怪人』より 《All I ask of you》 チャールズ・ハート作詞／リチャード・スティルゴー補作詞／ 浅利慶太日本語詞／アンドリュー・ロイド・ウェバー作曲	掲載なし	2重唱 (ソプラノ歌手B, テノール歌手A) チェロによる伴奏あり
11曲目	ミュージカル『オペラ座の怪人』より 《Point of no return》 チャールズ・ハート作詞／リチャード・スティルゴー補作詞／ 浅利慶太日本語詞／アンドリュー・ロイド・ウェバー作曲	掲載なし	2重唱 (ソプラノ歌手B, テノール歌手B)
12曲目	《愛の挨拶》 エドワード・エルガー作曲	4年生(鑑) ※鑑賞用CDに収録	ヴァイオリンの独奏 (ヴァイオリン奏者)
13曲目	組曲『動物の謝肉祭』より 《白鳥》 ※午後の公演のみ カミーユ・サン＝サーンス作曲	5年生(鑑)	チェロ独奏 (チェロ奏者)
14曲目	《恋》 星野源作曲／WataGen編曲	掲載なし	ピアノ3重奏 (ヴァイオリン奏者, チェロ奏者, ピアノ奏者)
15曲目	ディズニー『美女と野獣』より 《美女と野獣》 ハワード・アッシュマン作詞／アラン・メンケン作曲／高橋知伽江日本語詞	掲載なし	2重唱 (ソプラノ歌手B, テノール歌手B) ヴァイオリンとチェロによる伴奏あり
16曲目	ディズニー『美女と野獣』より 《ひそかな夢》 ※午後の公演のみ ティム・ライズ作詞／アラン・メンケン作曲／高橋知伽江日本語詞	掲載なし	独唱 (テノール歌手B) ヴァイオリンとチェロによる伴奏あり
17曲目	ディズニー『アラジン』より 《A Whole New World》 ※午後の公演のみ ティム・ライズ作詞／アラン・メンケン作曲／湯川れい子日本語詞	4年生(鑑) ※鑑賞用CDに収録	2重唱 (アルト歌手, テノール歌手A) ヴァイオリンによる伴奏あり
18曲目	《あなたへのメッセージ》 人見敬子作詞／西澤健治作曲	掲載なし	独唱 (ソプラノ歌手C)
19曲目	《Believe》 ※午前の公演のみ 杉本竜一作詞／作曲	5年生(歌)	女声2部合唱 (ソプラノ歌手A, ソプラノ歌手B, ソプラノ歌手C, アルト歌手)
	《地球星歌～笑顔のために～》 ※午後の公演のみ ミマス作詞作曲／富澤裕編曲	掲載なし	女声2部合唱 (ソプラノ歌手A, ソプラノ歌手B, ソプラノ歌手C, アルト歌手)

20曲目	《ありがとうの花》 ※午前の公演のみ 坂田おさむ作詞／作曲	5年生（歌）	混声2部合唱 (ソプラノ歌手A, ソプラノ歌手B, ソプラノ歌手C, アルト歌手, 箏奏者, テノール歌手A, テノール歌手B, バリトン歌手A, バリトン歌手B) ヴァイオリンとチェロによる伴奏あり
	《道》 ※午後の公演のみ Shogo Kashida作詞／miwa furuse作曲／若 松敏編曲	掲載なし	混声4部合唱 (ソプラノ歌手A, ソプラノ歌手B, ソプラノ歌手C, アルト歌手, 箏奏者, テノール歌手A, テノール歌手B, バリトン歌手A, バリトン歌手B) ヴァイオリンとチェロによる伴奏あり

9～11曲目は「ミュージカル」をテーマとして、『オペラ座の怪人』の歌唱曲を選曲した。これらの歌唱曲はいずれも音楽科の教科書には掲載されていないが、教科書の教材曲のジャンルが多様化していることを踏まえて選曲した。とりわけ、10曲目はピアノ伴奏にチェロの伴奏を加えた。なお、11曲目は『オペラ座の怪人』のヒロインであるクリスティーヌとオペラ座の怪人の2重唱である。オペラ座の怪人は本来バリトンが歌唱するが、この音楽鑑賞教室ではあえてテノール歌手B、すなわち筆者が歌唱した。この理由は「演出」に関わるため、後述することとする。

12～14曲目は「器楽」を中心にプログラミングをした。12曲目の《愛の挨拶》は教科書に掲載されていないが、教科書に準拠した鑑賞用CD（教育芸術社2015）に収録されていたため選曲した。この楽曲は作曲者によってピアノ独奏やヴァイオリン版などのいくつかの演奏形態が残されているが、この度の音楽鑑賞教室ではヴァイオリンの音色を味わえるように、鑑賞用のCDと同じくヴァイオリンによる独奏とした。13曲目のチェロの独奏は、午後の公演のみ演奏した。14曲目は、全学年が楽しめるであろう、一世を風靡したJ-popの《恋》を、あえて耳馴染んだ歌唱ではないピアノ3重奏で演奏した。

15～17曲目は「ディズニー」をテーマとした。15曲目も前述した11曲目と同様に「演出」に関わるため、次節にて後述する。16曲目と17曲目は午後の公演のみ演奏した。前述した13曲目のチェロの独奏を含めると、

午前の公演は午後の公演より3曲少ないこととなる。これは午前の公演を鑑賞するのは小学校低学年が多かったことから、集中力などを考慮してあえて午後の公演よりも短くなるよう、調整したためである。なお、16曲目の《ひそかな夢》のオリジナルキーはイ長調であったが、テノールが歌唱するため、ロ長調に移調して演奏した。また、17曲目の《A Whole New World》は教科書に掲載されていないが、《愛の挨拶》と同様に教科書に準拠した鑑賞用CD（教育芸術社2015）に収録されているため選曲した。

18、19曲目は、「小学校で扱うことがある歌曲曲」をテーマとした。《あなたへのメッセージ》と《地球星歌～笑顔のために～》は教科書に掲載されていないが、小学校で歌唱する可能性のある楽曲である。後述する児童の感想でも見られるように、実際に実施校の小学校高学年も《地球星歌～笑顔のために～》を歌っていた。「はじめに」に記したように、基本的にプログラミングも筆者が担当したが、18曲目だけは演奏者、すなわち、ソプラノ歌手Cが選曲した。19曲目は午前と午後の公演で変えた。午前の公演では、児童に耳馴染みのある《Believe》を、午後の公演では小学校で合唱曲として扱われることもある《地球星歌～笑顔のために～》を選曲した。これらを歌唱するにあたっては、いわゆる声楽曲を歌うのとは異なるテクニックが求められる。そのため、小学生の範唱として相応しい歌い方ができるであろう、女性歌手をキャスティングした。

最後の20曲目も午前と午後の公演で変えた。具体的に午前の公演ではNHKのTV番組「おかあさんといっしょ」でも流れることがあるため、児童に耳馴染みがあるであろう、《ありがとうの花》を2部合唱で演奏した。この楽曲は教育芸術社の教科書には掲載されていなかったが、もう1社の教科書会社である教育出版の『小学音楽 おんがくのおくりもの3』（新実ほか2015、p.50）には掲載されていた。午後の公演は中学生で行う「混声合唱」を想定して、混声合唱の説明をした上で、EXILEの《道》を混声4部合唱で演奏した。なお、20曲目は午前と午後の公演ともに、出演者全員で演奏した。

表1、2におけるプログラムを音楽鑑賞教室で演奏するにあたって、事前にJASRACに申請し、許諾を得た。

2.2 演出

本節では、音楽鑑賞教室での「演出」について記す。

まず、演奏は基本的に、体育館のステージは使わず、体育館の床で演奏した(図1参照)。

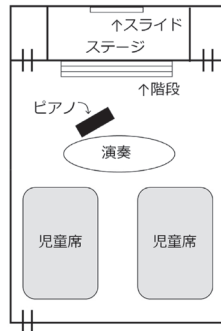


図1 体育館内の配置図

図1のように児童席は2つに分け、演出によって児童席の間を通路として使えるようにした。演奏中はパワーポイントのスライドに楽曲名と、児童が音楽科の授業で使う教科書に掲載されている学年を右下に示した。その例を図2に示す。

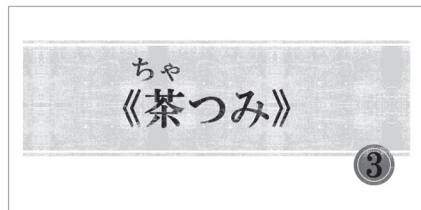


図2 演奏中にステージに投影したスライドの例

基本的にアルト歌手の司会によって、プログラムを進行した。前述したように、この音楽鑑賞教室は午前と午後の公演ともに、第1部と第2部を合わせて90分を超える公演時間となる。そのため、場面を設定しサプライズを仕掛けたり、照明や児童の目線、動きを付けたりするなどの演出を工夫することで児童の興味を引くことができるよう、配慮をした。以降は、この音楽鑑賞教室の演出の概要と午前と午後の公演の違いを、適宜、各場面の画像を示しながら記す。

2.2.1 第1部の演出と様子

1曲目の《ラデツキー行進曲》ではピアノ3重奏の演奏に合わせて、体育館後方の扉より児童席の間を出演者が行進して入場した（図3参照）。



図3 《ラデツキー行進曲》に合わせて出演者が入場する様子

その際、筆者だけは入場しなかった。なお、続く第1部に筆者は出演していない。この理由は、1.4で記したように、児童にサプライズを仕掛けるためであった。詳しくは2.2.2で後述することとする。入場後、司会より公演の紹介と、2.1に記したスライドの見方を児童に解説した。

『ふるさとの四季』では、「日本の歌」をテーマにしたことを念頭に、4人の歌手は浴衣などの和装で演奏をした（図4参照）。



図4 『ふるさとの四季』を演奏している時の様子

続く《夕やけこやけ》と《この道》は通常のステージ衣装で歌唱した。《夕やけこやけ》ではソプラノ歌手Cのアイデアで、曲の冒頭にソプラノ歌手Cによる鍵盤ハーモニカの旋律奏を加え、かつ、歌唱時には手話を付けた（図5参照）。



図5 《夕やけこやけ》の冒頭で鍵盤ハーモニカを演奏している時の様子

「和楽器」の演奏は、再び和装で演奏した。箏と尺八の演奏の前には、尺八奏者が箏と尺八について児童に解説をした（図6、図7参照）。



図6 箏の説明をしている時の様子



図7 尺八の説明をしている時の様子

図8は《Let it go》、図9は《春の海》を演奏している時の様子である。



図8 尺八で《Let it go》を演奏している時の様子

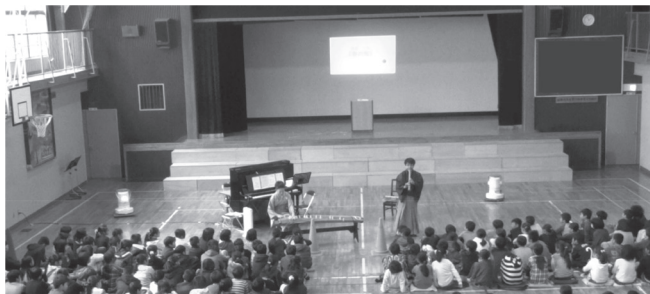


図9 《春の海》を演奏している時の様子

「ヨーロッパの歌」では児童席の間を利用して体育館を広く使用した。この理由は、児童の視線を変えることで、興味を引くためであった。とりわけ2重唱では、児童が親しめるよう、演技を付けて演奏した（図10参照）。



図10 《パパゲーノとパパゲーナの2重唱》で演技をしながら演奏している時の様子

2.2.2 第2部の演出と様子

第1部はカーテンを閉めずに明るい体育館で演奏したが、休憩の間にカーテンを閉めて体育館を暗くできるようにした。この理由は2つある。1つめは後述するように、『オペラ座の怪人』の怪人役の筆者とソプラノ歌手Bの2重唱（11曲目）を暗闇で演奏するためであった。2つめは照明を変えることで第1部と第2部の雰囲気を変えることであった。

9曲目の前に司会が『オペラ座の怪人』の冒頭のあらすじを児童に話した。そのあらすじの話の中で、スライドで怪人の仮面を投影し、かつ、筆者が舞台裏からマイクと変声器を使って怪人のセリフを言うことで怪人の存在を児童に周知した（図11参照）。



図11 オペラ座の怪人のマスクを投影している時の様子

続く9曲目と10曲目も司会のあらすじに合わせて進行した。照明についてはカーテンを閉めたまま体育館の照明の代わりにスポットライトを付けた。《All I ask of you》では演技を付けた（図12参照）。



図12 《All I ask of you》を演奏している時の様子

11曲目はスポットライトも消して暗闇を作った。しかし真っ暗では舞台として成立しないため、体育館の各所に設置されていたストーブの明かりと、スライドの明かりを利用して、できるだけ暗い舞台を作った。11曲

目ではさらに舞台を暗くし、筆者は怪人の仮面を付け、かつ、体育館の後方から入場しながら、演技を付けて歌唱した。暗闇で演奏したことで、午前と午後の公演ともに、この際に筆者が怪人を演じていることに児童が気付くことはなかった（図13参照）。

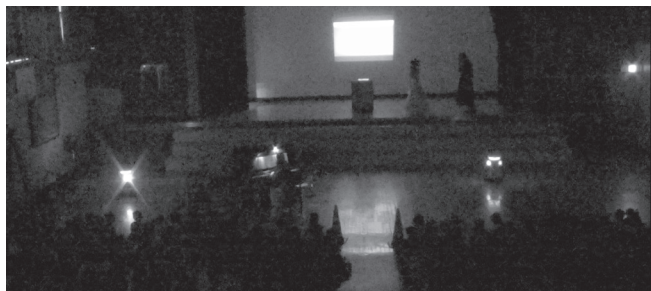


図13 《Point of no return》を演奏している時の様子
(ステージの上手のシルエットの左側がソプラノ歌手B、右側がテノール歌手B)

第2部の「器楽」の演奏では第1部の和楽器の時と同じく、ヴァイオリンとチェロ、それぞれの奏者が楽器について解説をした(図14、図15参照)。



図14 ヴァイオリンの説明をしている時の様子



図15 チェロの説明をしている時の様子

図16に示すピアノ3重奏による《恋》では、音楽に合わせて歌を口ずさむ児童や踊りを踊ったり、歌を歌ったりする児童の姿が多く見られた。



図16 《恋》を演奏している時の様子

「ディズニー」の《美女と野獣》では、演出の1つとして1.4でも触れたサプライズを児童に仕掛けた。具体的には《美女と野獣》を演奏する前に、司会から怪人が今度は野獣に扮して歌うことを伝え、筆者は怪人のマスクを付けて入場した。歌唱する直前にマスクを取ることで、初めて筆者が出演者の一人であることを児童に明かした(図17参照)。



図17 《美女と野獣》を演奏している時にマスクを取った場面

筆者が第1部の《ラデツキー行進曲》で入場しなかった理由は、公演の後半であるこの場面で児童にサプライズを仕掛けるためであった。なお、この2重唱も演技を付けて演奏した。続く《A Whole New World》も演技を付けて演奏した（図18参照）。



図18 《A Whole New World》を演奏している時の様子

「小学校で扱うことがある歌唱曲」をテーマとした《あなたへのメッセージ》では、第1部の《夕やけこやけ》と同様にソプラノ歌手Cのアイデアにより、手話を付けて演奏した（図19参照）。



図19 手話を付けて《あなたへのメッセージ》を演奏している時の様子

続いて、女性歌手で合唱曲を演奏した様子を図20に示す。



図20 《地球星歌～笑顔のために～》を演奏している時の様子

午前の公演の最後の楽曲《ありがとうの花》でも、ソプラノ歌手Cのアイデアにより手話を付けた（図21参照）。この手話を真似している児童や歌を口ずさむ児童が多く見られた。



図21 手話を付けて《ありがとうの花》を演奏している時の様子

図22は午後の公演の最後の楽曲《道》を演奏している時の様子である。



図22 EXILEの《道》を演奏している時の様子

3. 鑑賞した児童の感想と教員のアンケート結果

本章では、公演後に小学校3～6年生の児童が書いた感想の一部と、児童とともに鑑賞した小学校の教員へのアンケート結果を紹介する。小学校1、2年生には参考資料として、気に入った曲を選択できる、簡易的なアンケートのみを行ったが、これについては紙幅の都合により、本稿では割愛する。

3.1 児童の感想

児童の感想を紹介するにあたり、児童の感想を【歌に関する感想】【楽

器に関する感想】【プログラムに関する感想】【演出に関する感想】の4つに分類した。下線は筆者によるもので、分類をするにあたり着目した部分を示す。なお、誤字脱字などは適宜、修正している。また、ひらがなによる記述も適宜、漢字に変換し、楽曲名は《 》で記す。

【歌に関する感想】

- ・《茶つみ》の水色の着物の人の声がすごく高く、声が出せてすごいと思いました。(3年生・女子)
- ・《パパゲーノとパパゲーナの2重唱》は2人の男女の物語みたいですごく楽しかった。(3年生・女子)。
- ・みんな歌がうまくて、私もあのように綺麗に歌たいです。(3年生・女子)
- ・みんなの声が合わさることで自分の一人ではできない歌声を聴けて勉強になった。(3年生・女子)
- ・《あなたへのメッセージ》は、その人に送るメッセージがとても素敵で、声が高い声や低い声を歌ったりしてとても素敵でした。(3年生・女子)
- ・色々な曲を聴いて、私はどうやって弾くんだろう？とか、綺麗な声はどんな風にして出せるんだろう？とか、気になることがいっぱいありました。(3年生・性別未回答)
- ・男の人は低い声で歌ったり、色々な声が聴こえた。オペラ座の怪人の演技が上手だったし、歌も綺麗で上手に歌っていて凄いと思った。オペラ座の怪人の続きを見てみたいです。(3年生・女子)
- ・《この道》が一人で歌ったのに体育館に響いてすごかったです。(4年生・女子)
- ・《ああ私のお父さん》の歌が音が響いてすごいと思いました。(4年生・女子)
- ・《A Whole New World》が2人の声が合わさっていてとても素敵だった。(4年生・女子)
- ・私は特に《もみじ》が良かったと思いました。それは強弱やハモリの入るところがとても上手だったので、すごいと思いました。(5年生・女子)
- ・《あなたへのメッセージ》が、あなたにやっと会えたと心を入れてメッセージを読んでいる感じがして美しい声だった。(4年生・女子)

- ・《闘牛士の歌》を聴いていると、本当に闘牛士を見ている感じで面白かった。（5年生・男子）
- ・私は《道》が良いと思いました。なぜならば4つのパートに分かれていて、それぞれが声を出し合って、とても綺麗な響きを出していたからです。また、サビで男性パートが低い声で歌っていたところ（あたりまえが未来に変わる）がカッコいいなと思いました。（5年生・女子）
- ・《地球星歌》は自分たちも授業で歌っているので、そう歌ったら良いのかや、下のパート、上のパートの強さがよく分かりました。（5年生・男子）
- ・先生は1～3年生の時に教えてもらっていたけど、いつもと違う感じの声で歌っていて、色んな感じに歌えてすごいと思いました。（5年生・女子）
- ・女性と男性の声の重なり合いが綺麗で魅了されました。また歌詞から歌の意味や思いが伝わってきました。またその一言一言に感情がこもっていて良かったです。その歌が何を伝えている歌なのか、綺麗な歌声とともに伝わりました。（5年生・女子）
- ・僕は連合音楽会で下のパートを歌うんですけど、練習しても音程や声を低く出すのが難しかったけど、今回のみなさんの歌を聴いて下のパートはこうやるんだなと思ったので、まねして頑張りたいと思います。（5年生・男子）
- ・私も音楽の授業の時に意識して声を出してみようと思います。（5年生・女子）
- ・《この道》は頭の中で風景がはっきりとイメージできて、詞を書いた人の考えやイメージも感じられた。ソロで歌うからこそ《この道》に作者が込めた想いを感じて、りんとした声が耳に心地良かった。（6年生・女子）
- ・《A Whole New World》は男の人の声が低くて、すごくアラジンっぽくて綺麗だった。（6年生・女子）
- ・《地球星歌》は昨年や今年も歌う曲で、私たちが歌う時よりもとても綺麗な歌声でした。私もこんな風に歌ってみたいと思いました。（6年生・女子）
- ・《地球星歌》は私たちも習っていて、実際に卒業式で歌っているけど、本当に全然違って、一人だけでも体育館全体に響いていて、見れて、聴けて良かったです。（6年生・女子）

【楽器に関する感想】

- ・《ラデツキー行進曲》で音が微妙に変わるところが気に入りました。(3年生・男子)
- ・《Let it go》を弾いていた「尺八」の音がすごくよかったです。(3年生・女子)
- ・《恋》や《Let it go》という映画の曲などがでてきて予想が追いきませんでした。しかもヴァイオリンとか、生では聴いたことのない楽器で、しかも速い曲を演奏していたので、びっくりして腰が抜けそうになりました。(3年生・男子)
- ・全部の歌にピアノがあったけど、1つのピアノで弾いても綺麗だけど、他の楽器と一緒に演奏すると、もっと綺麗なんだなと思いました。(3年生・女子)
- ・《ラデツキー行進曲》のヴァイオリンとチェロのメロディーがハモっていて、スタッカートでさらに行進しているように聴こえました。(4年生・女子)
- ・《さくらさくら》のお箏が私の真ん前だったのでびっくりしました。けれど初めて生で聴いて、弦を指で弾くだけで音が出るのはすごいと思いました。(4年生・女子)
- ・《愛の挨拶》はもともと知っていて、生で聴いてやっぱりいいなと思った。(4年生・女子)
- ・《白鳥》の感じが豊かなところが気に入りました。楽器を弾いている人が白鳥のイメージをよくできているところもとても良かったです。(4年生・女子)
- ・箏の音色がとてもキレイだったのでびっくりしました。僕も箏を弾いてみたいです(5年生・男子)
- ・《白鳥》が綺麗な音色で聴きやすかったです。(5年生・女子)
- ・《恋》が気に入りました。もっとたくさんの楽器でしかできないと思っていたのでびっくりしました。私が1番好きなのはチェロを弦で弾いた音を出すところが、ヴァイオリンの音と重なっているところが好きです。(5年生・女子)
- ・尺八は知らなかったけど、鑑賞教室で尺八のことをよく知りました。(6年生・男子)
- ・箏の繊細で優しい響きがさくらのふんわりとした感じを美しく表現していた。また、尺八の少しかすれた響きも重なると、和風で優しい音色になり、とても気に入った。(6年生・女子)
- ・《恋》は今まで歌としか見ていなかったけど、楽器だけで演奏しても綺麗だと思った。歌を良く仕上げるには楽器も重要な役割を持っていることに気付いた。(6年生・女子)

- ・《恋》という曲が良かったです。速いリズムだけどピアノとヴァイオリンとチェロの3人の心が合っていてそろっていたのだと思いました。みんな知っているのですが、リズムにのれて良かったです。(6年生・女子)

【プログラムに関する感想】

- ・《こいのぼり》という歌はとても綺麗な音をしているなと思いました。(3年生・性別未回答)
- ・とても綺麗に歌っている時に声が綺麗だったのと、色々な曲が聴けて嬉しかった。(3年生・男子)
- ・知っている歌もあつたり知らない歌がたくさんあって、新しい歌を学べてよかったです。(3年生・男子)
- ・《Believe》をたくさんの人で歌ったことがあって、もともと好きだったけど、さらに好きになりました。(3年生・男子)
- ・《春の小川》《茶つみ》を聴いて、もう学習しているから懐かしいなと思った。(3年生・女子)
- ・《われは海の子》の歌のところが良くて、声が綺麗ですごくかっこいいなと思いました。(3年生・男子)
- ・やさしい曲から少し怖い曲まであって、やさしい曲は穏やかな音がして、たくさんの楽器の音が綺麗でした。特にヴァイオリンが綺麗でした。(3年生・女子)
- ・1年の歌がなかったと思うから寂しかった。(3年生・男子)
- ・色々な楽器なども見れたり、音を聴けて良かったです。それに外国の歌や私が知らない曲を演奏したり歌ったりして知らない曲もとても楽しく思えました。そして私は音楽がもっともっと好きになりました。(4年生・女子)
- ・日本の楽器から外国の楽器と様々な音楽を聴けて良かったです。あと日本の曲から外国の曲、そしてミュージカルなどを見て聴けて良かったです。(5年生・女子)
- ・《道》の語りかけるようなリズムが気に入った。卒業式をつい考えてしまうような口調だったので感激した。(6年生・男子)
- ・《ふるさと》が気に入りました。なぜならば最近では《ふるさと》のような歌が少なく

て、とても目立っていたし、昔の日本を描いたような感じが良かったから。(6年生・男子)

- ・ どれも授業で習う曲なので良かった。(6年生・男子)

【演出に関する感想】

- ・ 先生が出てきた時は、すごく感動して泣きそうになりました！もともと音楽が大好きですが、今日、色々な曲を聴いて、もっともっと音楽が好きになりました！とてもいい体験をさせてもらいました。(3年生・性別未回答)
- ・ 《ありがとうの花》の曲の手話のところが気に入った。(3年生・男子)
- ・ 「オペラ座の怪人」が少し怖かったです。「オペラ座の怪人」が先生だったのでびっくりしました。(3年生・女子)
- ・ 《道》が最後にとっても合って気に入った。(4年生・男子)
- ・ 《パパゲーノとパパゲーナの2重唱》のパパゲーノ役を演じた男の人の声が、マイクもないのにすごい大きな声で近くに来たらびっくりしました。(4年生・男子)
- ・ 私はみなさんの演奏に感動してしまいました。どうして感動したかという、歌では気持ちを込めて歌ってくれて、聴いた私もつい感動したからです。楽器では、楽器の説明を細かく教えてくれて、知らない楽器の名前を知ることができました。最後の歌も最後まで気持ちを込めて歌ってくれてうれしかったです。先生もすごい歌声でビックリしました。(4年生・女子)
- ・ 先生のサプライズがとてもビックリしたし、とても先生とは思えない声だったので、とても面白かったです。(5年生・女子)
- ・ 演奏に「箏」とか使ったり、着物を着ている人もいて、古風な感じがまた良いなと思いました。(6年生・女子)
- ・ 途中にあった、劇みたいところから歌うというのが、よく楽しめました。全ての曲が予想外で楽しかったです。オープニングもすごく、最初から最後まですごくびっくりした。(6年生・女子)

3.2 教員へのアンケート

「はじめに」で児童が教育現場で「生の歌声」を聴く機会が少ないことを問題意識として挙げたが、それは教育現場に直接関わる教員にとっても同様と言える。小学校の教員は音楽の授業を担当することがあるため、生演奏を聴く機会は教材研究の一環にも成り得る。では、実際に小学校の教員は「生の歌声」を含む、教科書教材の生演奏をどのくらい耳にしたことがあるのだろうか。この傾向を知るために、鑑賞教室を開催した後に、児童と一緒に鑑賞教室を鑑賞した小学校の教員を対象に簡易的なアンケートを実施した。その一部の結果を、参考資料として示す。アンケートの項目は「記憶にある範囲で構いませんので、下記に列挙した楽曲のうち、これまでに学校教育現場の授業以外、すなわち、今回のような鑑賞教室やコンサートなどの場において、いわゆる『生演奏』で聞いたことがある楽曲を教えてください」であった。アンケートには後掲する表3にも記すように、鑑賞教室で演奏した楽曲のうち、教科書教材だけを列挙し、該当する楽曲に丸をしてもらった。なお、教育現場以外の「生演奏」の解釈は、「校内音楽会や連合音楽会などの学校行事は除外」「コンサートについては演奏家による演奏だけでなく、例えば地域の合唱団などの演奏を含む」「その楽曲を聞いたことがある場合、演奏形態は問わない。例えば、歌唱の共通教材であれば今回のような重唱ではなく独唱でも構わない、器楽の《ラデツキー行進曲》であれば、今回のようなピアノ3重奏による演奏ではなくオーケストラでも構わない」とした。

アンケートは教職員を対象に27枚配布してもらい、回答は任意とした。集計結果として全回答数は16名、そのうち教員ではないと考えられる回答数2名（職員）、したがって14名の回答を有効とした。その結果を表3に記す。なお、表3は表1、2をもとに、鑑賞教室で演奏した教科書教材の楽曲名だけを歌唱教材と器楽教材に分類して記している。また、例えば午前の公演のみ演奏した楽曲には「※午前の公演のみ」と記している。

表3 小学校の教員を対象としたアンケート結果 (n=14)

歌唱教材		
楽曲名	教科書掲載学年	回答数
《夕やけこやけ》※午前の公演のみ	2年生(共通)	1
《茶つみ》	3年生(共通)	1
《春の小川》	3年生(共通)	1
《もみじ》	4年生(共通)	1
《こいのぼり》	5年生(共通)	1
《冬げしき》	5年生(共通)	1
《ありがとうの花》※午前の公演のみ	5年生	0
《Believe》※午前の公演のみ	5年生	0
《おぼろ月夜》	6年生(共通)	1
《ふるさと》	6年生(共通)	3
《われは海の子》	6年生(共通)	1

鑑賞教材			
分野	楽曲名	教科書掲載学年	回答数
歌唱	《パパゲーノとパパゲーナの2重唱》	4年生	2
	《A Whole New World》※午後の公演のみ	4年生(鑑賞用CDのみ)	5
	《この道》※午後の公演のみ	5年生	2
器楽	《ラデツキー行進曲》	1年生	3
	《さくらさくら》	4年生	2
	《白鳥》※午後の公演のみ	4年生	4
	《愛の挨拶》	4年生(鑑賞用CDのみ)	2
	《春の海》※午後の公演のみ	5年生	3

4. まとめと今後の展望

本稿では、歌と小学校音楽科の教科書教材を主とした小学校での音楽鑑賞教室の「企画・構成」、「キャストイング」、「プログラム」、「演出」と児童の感想及び教員へのアンケート結果を報告した。

第3章において紹介した児童の感想を見ると、この音楽鑑賞教室で主としたものの1つ、歌に関しては《地球星歌～笑顔のために～》などのように、歌い方を真似してみたいなどの「憧れ」や、どうやって歌うのか、また、曲や声種によって歌声が異なることなどの歌への興味を引き出すことができたと言えよう。これは「生の歌声」を耳にした効果と考えられる。器楽についても、日本伝統の楽器の音色を直接見聞きすることで、視覚と

聴覚の両面から箏と尺八について知ることができ、かつ、それを好む感想が見られた。ヴァイオリンやチェロについても、音色を聞き分けることで、自然と楽器によって異なる音色の魅力を感じ取った様子が見られた。プログラムについては教科書教材を主として扱うことによって、《茶つみ》や《さくらさくら》のようにすでに学習した楽曲は親しんで聴くことや別の視点で魅力を見つけることができたと言えよう。スライドで教科書が掲載されている学年を記したことはその援助になったと考えられる。また、学年を示したことで例えば小学校3年生がまだ扱っていない小学校4年生以上の楽曲をいずれ扱うことになるであろうということを意識しながら鑑賞することができたのではないかと考えられる。多彩なジャンルを扱うプログラムの中で、曲種に応じて歌声を使い分けた歌手のテクニックや表現を児童が知覚できたことや演出が功を奏し、長時間の公演の中でも児童が変化を感じ取り、音楽鑑賞教室を最後まで楽しむことができた様子が後半の感想が充実していたことから見て取れる。

参考資料とした表3の小学校の教員へのアンケートの結果からは、教員も歌唱器楽問わず教科書教材の生演奏を聴く機会が多くないとともに、器楽に比べると歌唱はさらに少ない傾向にあることが伺えた。この結果から、児童のみならず、音楽科を担当することができる小学校の教員も学校内外問わず、生の歌声で歌唱教材を聴く機会は多くないことが示唆されたと言えよう。したがって、児童のみならず小学校の教員にとっても、小学校での音楽鑑賞教室で歌と教科書教材を中心にプログラムを組むことには効果があったと判断する。

現行の学習指導要領においては、カリキュラム・マネジメントが重視されている（文部科学省2018、p.5）。専門家による音楽鑑賞教室も、教育の質の向上を図るためのものになると言えよう。以上を踏まえて、本稿で報告した歌と音楽科の教科書教材を主とした小学校での音楽鑑賞教室には一定の成果があったとする。

一方で、「プログラムに関する感想」では、小学校1年生の歌唱曲も聴

きたかったという感想が見られた。このような児童の関心を踏まえると、プログラミングについてはさらに再考する余地があると考えられる。今後、再び音楽鑑賞教室を開催する機会に恵まれた際には、この公演から得た知見を活かして、さらに教育を通して音楽の魅力を伝えられる音楽鑑賞教室を開催したい。

引用・参考文献

- 教育芸術社（2015）『小学生の音楽4 平成27年度～鑑賞用CD』DCT-273516. CD.
文部科学省（2008）『小学校学習指導要領 解説 音楽編』教育芸術社.
文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』東洋館出版社.
新実徳英ほか（2015）『小学校音楽 音楽のおくりもの3』教育出版.
小原光一ほか（2015）『小学生の音楽1～6』教育芸術社.